

第 19 回緩和医療学会学術集会に参加して

2014 年 6 月 19 日～21 日まで 神戸にて第 19 回緩和医療学会が開催され、参加してまいりました。

学会参加者は、医師、看護師等の病院勤務者の他、在宅医療に関わっておられる方々や一般参加者などバラエティーに富んでいます。他の医学系の学会よりダークスーツの参加者が少ないので、ちょっと華やかな印象です。

当講座からは、大澤先生が『血液透析がフェンタニル血中濃度の変化と疼痛に与える影響を検討した大腿平滑筋肉腫の 1 例』を、私が『子どもをもつがん患者の思いが、他の子どもをもつ患者のケアにつながった症例』をポスター発表させていただきました。

私が発表した“がん患者の家族へのケア”は最近注目をあびている分野で、緩和医療学会でも年々発表件数が増えています。私は、4 年前からこのケアに関わりはじめ、日々患者さんから学ばせていただいています。今回は、帝京大学にきてからの 1 年間で経験した事について、同じようにケアを行っている方々からのご意見を伺いたいと思い発表させていただきました。

嬉しいことに、発表の際にはたくさんのご意見を伺うことができ、さらなるケアの取り組みに変参考となりました。また、後日「がん医療におけるチャイルドサポート」ワークショップに参加させていただいた際には、思いがけずレクチャーのなかで今回の発表についてふれていただき今後の励みになりました。

学会での発表に慣れない頃は、言われたからやる、どうか質問なく何事もなく終わりますように、と思っていましたが、発表することで得られることの重大さがわかるようになり、如何に言いたいことを理解してもらえるかを重要視した発表を心掛けるようになりました。

まだまだ、未熟ではありますが、これからも学会発表を通して学んでいこうと思います。

帝京大学医学部緩和医療学講座 久保 佳子